

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270401118		
法人名	有限会社 リナ		
事業所名	グループホーム 星の里		
所在地	千葉県市若葉区野呂町738-2		
自己評価作成日	平成31年2月13日	評価結果市町村受理日	令和元年7月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成31年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>施設の周りの環境が、田んぼや緑に囲まれ、静かな所に所在しております。穏やかにのんびりと、その方のペースで過ごして頂く事が可能です。散歩なども、のどかな雰囲気で行い、リラックス出来る環境も提供しております。積極的に散歩を行っており、ご近所の方からのお声かけもあります。また、散髪等は無料で提供しており、ご入居者様にも喜んで頂いております。ご要望のある方に、お買い物や外食の機会を提供し、喜んで頂いております。健康管理に配慮をし、早期発見、早期対応に努めており、訪問診療、訪問歯科、受診介助等、ご入居者様の状況に応じて支援させて頂いております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>玄関は施錠せず利用者が出たい時にはいつでも出られる環境を作っている。月1回の外食や買い物、季節の花見、天気の良い日の散歩など外出の機会を多くしている。車いすの利用者も玄関先で日光浴をするなど外気に触れる機会を作っている。日中の活動を増やす事で良好な睡眠や下肢筋力の低下防止を図るとともに、一人ひとりに役割を持ってもらい、日常生活にメリハリと自信を持ってもらえるようにしている。記録にも工夫が見られ、介護計画で追加されたニーズを赤で記載し、職員にも分かりやすくしており、統一したケアの実現に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前、事業所理念を掲示していたが、当事業所の理念を職員と話し合い、職員の目に届く所に掲示し、意識付けをしている。	法人の理念とは別に今年度の研修で全職員で話し合い「その人に合った介護を提供し、笑顔で過ごせる明るいホーム」という独自の理念を作成した。理念は玄関やリビングに掲示し、職員間で共有して実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所の散歩など、天気の良いに実施しており、農家の方から、農産物の頂き物をするような関係が築けるようになってきている。	利用者は地域の夏祭りや花火大会に職員と共に参加している。ホームでは地域との交流を大切に考えており、行事には極力参加することを運営推進会議でも伝えている。また、ボランティアの受け入れなども検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、近況の報告や、地域の情報を交換するなど、認知症の方の現状を報告するなどし、理解を頂ける場になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	適宜、施設の状況を報告し、上記同様、意見を頂き、サービス向上に活かしている。夏祭りやお花見など、行事では情報を頂いたりしている。	運営推進会議を3か月に一度開催し、ホームからの報告と参加者からのアドバイスや意見を参考にしてサービスの質向上につなげるよう努めている。毎回特にテーマは決めておらず、参加者からの情報や提案で意見交換を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携	2019/3/7 社会援護課担当者と、連絡、報告、相談を行うと共に、月に1度は訪問し、近況の報告をしている。	書類の提出など市の窓口に行く際には情報交換をしている。また、地域包括支援センターは運営推進会議に出席しており、密に連携をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の研修の実施を行い、ケアの質の向上に向けている。	身体拘束適正化のための指針を整備し、3か月に一度運営推進会議で話し合っている。玄関やリビングに「身体拘束は行っていません」と掲示し、具体的に行動を制限する文言を示し職員に注意喚起をすると共に、利用者にも分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の研修の実施を行い、ケアの質の向上に向けている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の機会があれば、参加するよう努力をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、契約書の説明、重要事項説明書の説明を行い、質問などに答え、理解、納得を得た上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人、自らが、要望や、困っている事などを、職員や管理者に相談できる環境が出来てきている。	家族との関係が希薄な利用者が多く、家族に意見を聞くことが難しい状況である。職員は利用者に要望や希望を聞き、実現に向けた支援をしている。利用者の要望から食事の席を変えるなど対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に、会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、適宜、職員の相談や困っている事を、管理者が積極的に職員に聴取している。	毎月2ユニット合同でヘルパー会議を行い、意見や要望を聞く機会を作っている。要望にはできるだけ早く対応するようにしている。なお、会議に参加できなかった職員は議事録に目を通し、サインをして情報の共有を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、日常の勤務状況を観察し、個々のレベルや状況に合わせた、勤務配置などを行い、働きやすい環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は個々のレベルに合わせた、介護方法を提案し、現場の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流が図れなくなってきている。今後、交流する機会を設けるよう努力していく。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、ご本人が困っている事や不安な事をアセスメントや聴取し、入居後は、職員と情報を共有することで、早期に安心出来るよう、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	全入居者が、生活保護受給者となり、キーパーソンが不明であるが、ご友人や前任ケアマネージャーから情報を収集するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者が、ご本人とコミュニケーションを築き、真のニーズや、優先順位などを考慮するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様扱いをする事なく、一、個人とし、ご本人の有する能力を存分に発揮できるよう、役割を作り、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	全入居者が、生活保護受給者となり、キーパーソンが不明であるが、ご友人等の面会者が来所した際には、また面会に来所したいと思われる施設になるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会等は、積極的に受け入れ、再度、面会に来所したいと思われるような関係性の構築に努めている。	読書が趣味の利用者と一緒に図書館に行ったり、手工芸が得意な利用者に材料を提供するなど、これまで本人が馴染んできた暮らしを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の重度化に伴い、困難になってきているが、孤立しないよう、職員と情報を共有しあい、努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご要望に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションや、情報から、ご本人の状況や心理状態を考慮し、ご本人に良い環境を最善に考え、検討している。	職員は、日々の関わりの中で希望や意向の把握に努めている。得た情報は、主に業務日誌や連絡帳に記載している。急いで検討すべきことは、直接管理者やケアマネジャーに報告し、対応できるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活保護受給者で、前の情報が極めて少ない。出来る限り、情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活について、安否確認を含め観察をし、今年度は、一人も離設する利用者は居なかった。また、心身の状況は日々変わるので、慎重に観察を行う事を意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活について、情報共有をし、IADL、ADLを活用出来るよう、ケアプランを作成している。	月ごとにモニタリングを行い、利用者の状況や状態を評価している。介護計画書はサービス内容に番号を振ったり、計画の変更があれば朱記するなどの工夫が見られる。計画は職員間で共有したうえで支援するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌にて、情報共有ができ、サービス向上に繋がるよう活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員からの意見を確認し、ご本人のご要望や、課題について、迅速な対応や、臨機応変に対応出来るよう努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への花火大会や、市の図書館の催事などのお誘いを頂き、参加出来る方は参加し、楽しむ事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況に合った、医療連携を考えており、通院での受診、訪問での訪問診療を適切に利用し、主治医と連携を図っている。	利用者本人の状態に合わせて、通院か訪問診療かを決めている。通院は月1回、訪問診療は看護師同行で月2回である。看護師とは24時間オンコール体制下であり、安心できる環境が整っている。職員が同行して専門医への受診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	居宅療養管理指導にて、訪問医院の看護師と、24時間、連絡相談を取れる環境が整備されている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、MSWと連携を図り、安心して元の生活に戻れる、面会や情報交換をし、ご本人の状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアに未実施であるが、ご本人に苦痛の無いよう過ごせるよう、主治医と相談、連携を図る整備は整っている。	重度化や終末期に対するホームの考え方については、入居時に口頭で伝えていたが、昨年度の外部評価での指摘を受け、今年度「ターミナルに関する契約書」を作ることで対応方針を文書化した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命措置に関して、現場の職員も、知識が必要な為、外部研修へ参加し、ケアの質の向上に努めている。また、訪問医院の看護師かれ、指導を受ける機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年に2回の避難訓練を実施している。	年2回火災を想定した自主訓練を利用者と一緒に行っている。(うち1回は、夜間想定)また、消防用設備点検を毎年行い、災害時緊急連絡網とマニュアルを改定整備している。近隣には、災害時の協力を依頼している。	自然災害時の非常災害対策計画を29年5月にまとめ研修を行っている。今後は実際に訓練などを行うことを検討してもよいと思われる。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様主体の介護を心がけており、ご本人を尊重し、ご本人に合った声掛けが出来るよう指導に努めている。	個々の利用者に沿った声かけが行えるように、ヘルパー会議や研修などで話し合いを行っている。職員の不適切な対応が見受けられれば、その都度注意をし、利用者を尊重した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中から、ご本人の意向を表現出来る環境作りに努めている。職員の指導を行い、要望に応えられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活のペースは、ご入居者様のペースで過ごして頂けるよう、ご入居者にお任せしており、必要な方は声掛けや、提案の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で整容が出来る方はお任せし、お手伝いが必要な方は、職員がコミュニケーションを図りながら、髭剃り等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常の食事の他に、外食や、お寿司や、お弁当、カップラーメンなど、在宅で生活をしている方と同様な食事を提供出来る機会を設けている。また、家事の参加が出来る入居者様と一緒にしている。	季節感を取り入れ、利用者と一緒につくった野菜を使うこともある。時には外食を楽しんだり、お寿司やお弁当を買ってきて食べる機会もあり、食事が楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	無理強いせず、ご本人のペースに任せている。健康面は職員が管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要な方は、訪問歯科にて口腔ケアを受け、誤嚥性肺炎防止や、口腔機能維持に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力、テープ止めの紙おむつを使用しないよう、排泄ケアを行っている。	日中は、トイレで排泄ができるように支援している。夜間は、状況に応じておむつやポータブルトイレを使用する場合もある。おむつを使用していた人が入居してから1年かけて布パンツに移行した例もあり、個々の状態に合わせた自立支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックを行い、水分不足にならないよう配慮し、天気の良い日は散歩に出掛け、運動する機会を作るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴サービスを提供している。お湯の温度等は、本人の希望に合うよう努めて支援している。	週2回の入浴を支援している。お風呂の温度は利用者一人ひとりの好みに合わせるようにするなど、入浴を楽しめるようにしている。また入浴をしたくないという場合は清拭に切り替えるなど臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人様の習慣や、体調に合わせて、ご本人様に睡眠時間はある程度任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報を、職員と共有し、疾患や症状の変化に対応出来るよう指導すると共に、変化時に対応出来るよう、訪問医院と連携を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様、それぞれに合った、役割を提案し、参加して頂き、気分転換が出来るよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1度、外出する機会を設け、外食と買い物出来るよう支援している。	季節の花見などは年間行事計画に組み込んで実施している。また、買い物や外食などで外に出たり、天気がよければ毎日散歩にも出かけている。その他、外気浴など外の空気に触れる機会を持つようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の時に、金銭管理を行い、自己管理可能な方は、ご本人で管理をして頂き、介助が必要な方は、職員が付き添って、支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば対応するが、全員生活保護受給者になり、身元引受人も不在であり、依頼等は聞かれていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節が出来ない方が多いが、職員が巡回等で、点検を実施し、適温に設定をしたり、共有部分で、不快な思いをしないよう、その時々で、迅速に対応している。	日中は、カラオケ、ゲーム、体操などリビングで過ごす利用者も多いので、寛げる空間になるよう配慮している。掃き出しの窓がある明るいリビングで、清掃も行き届いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースと、居室と、ご入居者様に、過ごしやすい場所を選んで頂き、過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様が、過ごしやすいと感じられる、環境整備に配慮をしている。	利用者の状況に合わせて部屋を整えており、家具や冷蔵庫を持ってきている人もいます。冬季は、全室に加湿器を置いて、乾燥防止に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力の把握を共有し、役割を与えたり、自立した生活が送れるよう努めている。		